

【上巻】 目次

第一章	ハンセン病の光	1
第二章	大陸の嵐	71
第三章	議場の動き	125
第四章	生きる価値とは	159
第五章	万場老人は語る	191
第六章	帝国議会の場で	213
第七章	湯川生生塾	243
第八章	住民大会	269

## 主な登場人物等

万場軍兵衛 東京帝大出身。ハンセン病に罹り湯川地域に住む。「ここにはハンセン病の光がある」と言った。集落の指導者。

下村正助 ハンセン病の患者。軍兵衛を訪ね人間として生きたいと訴えた。

さや ハンセン病の患者で福島県の田舎から助け出された。正助と愛し合う仲に。

正太郎 正助、さやの間に産まれた。群馬県議会で「元気に発言。重監房の人を救うためカツオブシの差し入れを提案した。」

こずえ 万場老人を支える。ハンセン病の美女。

マーガレット・リー イギリス人宣教師。莫大な私財をハンセン病の患者救済に使った。

森山抱月 反骨の群馬県議会議員。キリスト教徒でかつて娼娼運動で活躍した。

小河原泉 京都帝大の医師。国の隔離政策に反対。さやは、この人物に接して子を産む決意を固めた。

カール ドイツ人宣教師。ドイツで「生きるに値しない命」という恐ろしい思想が広がっていると警告した。

水野高明 九州帝大で人権を教えた学者。ハンセン病を患い湯川地区に。訴訟では中心になって活躍する。

湯川 草津湯畑から流れる生命の存在を許さない強酸性の川。かつてはハンセン病患者を投げ入れたとも言われた。